

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》柴山 良彦（薬）

【概 要】

薬物は医療・介護・福祉の支援を必要とする人々には欠かせないモノである。福祉専門職が保健医療サービスを提供する関係者と連絡し、業務の連携を調整する際には薬物療法の知識が欠かせない。この講義では福祉専門職として活動する際に必要となる薬物療法の概要を習得する。

【学習目標】

薬物療法の目的、有効性、安全性について概説できる。
 医薬品の正しい取り扱いについて概説できる。
 薬物療法における社会福祉専門職の役割について概説できる。
 代表的な疾患と、その治療・診断に用いる薬物について概説できる。
 保険診療における適正な薬物療法について概説できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	薬物療法の目的	医薬品の概要、薬物療法の有効性、安全性について概説できる。	柴山
2	各医療職の役割と責任	医療・介護・福祉分野における医師、薬剤師、社会福祉士等の医療専門職の役割について概説できる。	柴山
3	薬の生体に対する作用： 薬力学	生体における薬の作用点である受容体、薬物が受容体に及ぼす作用について理解する。	柴山
4	生体の薬に対する作用： 薬物動態学	薬物を効果的に薬物を効かせるには投与量と投与間隔を調整すること、薬物相互作用に注意する必要があることを理解する。	柴山
5	医薬品の正しい取り扱い： 各種製剤の特徴	薬物を有効・安全に使用するための製剤化の目的を理解する。代表的な製剤の特徴を概説できる。	柴山
6	鎮痛薬・抗菌薬	代表的な疼痛、発熱、感染症の病態と、その治療に用いる鎮痛薬、抗菌薬について概説できる。	柴山
7	中枢神経、認知に作用する薬	不眠症、うつ病、統合失調症、てんかん、パーキンソン病、認知症などの病態と、その治療薬について概説できる。	柴山
8	自律神経、血液に作用する薬	高血圧、心不全、狭心症、不整脈、血液凝固異常症、貧血などの病態と、その治療薬について概説できる。	柴山
9	内分泌、骨に作用する薬	脂質異常症、糖尿病、骨粗鬆症、関節リウマチ、肝炎などの病態と、その治療薬について概説できる。	柴山
10	呼吸器、泌尿器に作用する薬	脱水、慢性腎臓病、排尿障害、高尿酸血症、肺炎、喘息、慢性閉塞性肺疾患などの病態と、その治療薬について概説できる。	柴山
11	感覚器、皮膚に作用する薬	緑内障、白内障、めまい、耳鳴、褥瘡、感覚障害などの病態と、その治療薬について概説できる。	柴山
12	悪性腫瘍の薬物療法	消化器、呼吸器、乳腺、血液など、各臓器に発生する代表的な悪性腫瘍の病態と、その治療薬について概説できる。	柴山
13	高齢者の薬物療法	高齢者特有の生理的な変化に伴う病態生理の変化と、薬物治療を行う上での注意点を概説できる。	柴山
14	取り扱いに特別な注意が必要な医薬品	麻薬や向精神薬など、取り扱いの際に特別な注意が必要な医薬品について概説できる。	柴山
15	保険診療と関係法規	医療・介護・福祉における薬物に関わる関係法規と、適正な保険診療について概説できる。	柴山

【評価方法】

定期試験（80％）とレポート（20％）。レポートの課題として福祉専門職が関与する症例をいくつか提示する。その中の1つの症例について病態・薬物療法の概要を記載し、社会福祉専門職としてどのような介入ができるか、意見を記述する。

【備考】

教科書：特に指定しない。担当者が資料を配布する。配布資料及びプレゼンテーションデータのうち、電子ファイルで公開できる内容は遠隔授業用共有フォルダに公開する。

参考書：「薬理学（系統看護学講座）」 医学書院
治療薬マニュアル2020年版 医学書院
新臨床内科学 第9版 医学書院

その他：治療薬マニュアル、新臨床内科学を含む総合診療データベースである「今日の診療」は総合図書館ホームページからアクセス可能である。

【学習の準備】

配布資料に添付した演習問題を1時間程度、復習すること。解答例は次回の講義で配布する。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2

【実務経験】

大学病院薬剤部および保険調剤薬局における薬剤師業務

【実務経験を活かした教育内容】

病院・薬局での薬剤師として、他職種連携の実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。